



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月10日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名
 コード番号 4118 URL <https://www.kaneka.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 稔
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 IR・広報部長 (氏名) 石田 修 (TEL) 03-5574-8090
 四半期報告書提出予定日 2020年11月12日 配当支払開始予定日 2020年12月7日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	266,714	△11.1	7,034	△45.1	4,017	△58.5	2,476	△59.0
2020年3月期第2四半期	299,855	△2.0	12,817	△28.9	9,675	△39.3	6,046	△43.4

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 6,577百万円(216.2%) 2020年3月期第2四半期 2,079百万円(△86.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	37.97	37.88
2020年3月期第2四半期	92.70	92.54

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	644,307	357,192	51.9
2020年3月期	653,262	354,094	50.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 334,304百万円 2020年3月期 331,483百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
2021年3月期	—	50.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	560,000	△6.9	21,000	△19.3	16,400	△18.7	10,000	△28.6	153.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	68,000,000株	2020年3月期	68,000,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	2,762,184株	2020年3月期	2,774,049株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	65,230,004株	2020年3月期2Q	65,223,202株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は、2020年11月10日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

世界の経済活動はコロナ禍の拡大により大きな打撃を受け、さまざまな価値観の変化とともに社会のパラダイムシフトが急速に進んでいます。世界経済は第1四半期（2020年4月～6月、以下1Q）の深刻な落ち込みを脱し、第2四半期（2020年7月～9月、以下2Q）は中国、米国を中心に各産業において回復の動きが強まっています。欧米でのコロナ禍の第二波の影響など不透明感に残るものの、10月以降は総じて回復ペースが上がるかと想定されます。

このような状況下、当社グループは、コロナ禍において成長機会が拡大しているHealth Care SUなど先端事業群が着実に収益を伸ばすとともに、1Qの業績の落ち込みの主要因となったMaterial SUなどコア事業群の生産の停滞が着実に回復してきています。夏場以降急速に持ち直している事業分野もあり、下期にかけて更に業績の改善が見込まれます。

当年度上期の業績は、売上高は266,714百万円（前年同期比11.1%減）、営業利益は7,034百万円（前年同期比45.1%減）、経常利益は4,017百万円（前年同期比58.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,476百万円（前年同期比59.0%減）となりました。

セグメント別売上高・営業利益

（単位：百万円）

	売上高							営業利益						
	2019年度			2020年度			上期増減	2019年度			2020年度			上期増減
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期		1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	
Material SU	60,176	60,238	120,414	48,894	55,587	104,482	△15,932 (△13.2%)	5,590	4,612	10,202	2,855	4,518	7,374	△2,828 (△27.7%)
Quality of Life SU	38,468	40,443	78,911	29,738	33,924	63,663	△15,247 (△19.3%)	3,728	3,854	7,583	1,236	2,692	3,929	△3,653 (△48.2%)
Health Care SU	10,949	11,008	21,957	11,698	12,756	24,454	2,496 (11.4%)	1,905	2,144	4,049	2,298	2,672	4,970	920 (22.7%)
Nutrition SU	38,908	39,101	78,010	35,938	37,560	73,498	△4,511 (△5.8%)	1,200	1,160	2,360	827	605	1,432	△928 (△39.3%)
その他	320	241	561	373	241	615	53 (9.6%)	180	106	286	248	92	341	54 (18.9%)
調整額	-	-	-	-	-	-	-	△5,600	△6,065	△11,666	△5,436	△5,576	△11,013	653 (-)
計	148,822	151,032	299,855	126,644	140,069	266,714	△33,141 (△11.1%)	7,004	5,812	12,817	2,029	5,005	7,034	△5,782 (△45.1%)

今期の業績をポートフォリオの観点から特徴をまとめると、以下の通りとなります。

- 1Qにコロナ禍で大きな打撃をうけたコア事業群（Vinyl、MOD、MS、Foam、Fiber、Foods）が世界経済活動の再開に伴い生産回復が進み、2Q以降着実に改善しています。コロナ禍を超えて更なる成長軌道への道筋が見えてきました。
- パラダイムチェンジのなかで成長機会が広がっている高収益の先端事業群（E&I、PV、Medical、Pharma、Supplement、農業生産支援）は、引き続き順調に伸長しています。特にPharmaとE&Iで新規用途向けの販売が拡大しています。
- コロナショックがもたらす劇的なパラダイムシフトを睨み、R&Bの「選択と集中」や間接部門を含めたDXの推進により、生産性の向上と新たなビジネス価値の創出に取り組む一方、経費等の徹底したコスト合理化も進めています。全社を挙げて生産性の最大化を目指す「Smart Work」の実現に取り組み、事業ポートフォリオの変革を加速させます。

各セグメントの状況は次のとおりです。

① Material Solutions Unit

- PVC：2Qはロックダウン解除後のインド向けや中国向けに塩ビポリマーの輸出が大幅増加、CPVCも出荷が始まっている。ペーストの衛生用手袋向けも好調、マレーシアの工場はフル稼働となっている。2Qは対前年同期で増益となった。
- MOD：欧米亜での経済活動再開により需要回復。2Q後半から販売数量が前年水準に復調。
- MS：中国の建築用途に加え、欧米で需要回復。2Qは前年並みに復調。
- PHBH：20,000t 量産プラント建設決定に向けて引き続き生産性向上、コストダウンの最終検討を進めている。

② Quality of Life Solutions Unit

- Fiber：1Qはコロナ影響によりアフリカ・米州向けの頭髮・難燃の需要が落ち込んだが、アフリカ向けは7月から月を追って回復。難燃、パイルの衣料用途は回復遅れ。
- Foam：EPS、KLFは国内需要低調下でもスプレッドを確保、EPOは遅れていた自動車向けが回復基調。
- PV：住宅向け高効率太陽電池が搭載率上昇により販売数量は堅調。
- E&I：2Qはスマホ用需要増やコロナ禍に伴うリモートワーク拡大によるタブレット・ノートPC向けが好調でピクシオは過去最高レベルの出荷。5G向け対応製品が販売増となり、新製品開発も順調に進展中。

③ Health Care Solutions Unit

- Medical：国内、海外市場ともに拡大、新製品の脳動脈瘤塞栓コイルが好調で、9月には米国向けの販売を開始し収益拡大に寄与。ASO治療用の新規血液浄化器を2021年販売予定。
- Pharma：アビガン原薬やKEGTのPCR検査試薬の供給開始などにより収益が拡大し、対前年同期で大幅増益。KEGTでアンジェス社ワクチン中間体の製造受注をはじめ世界大手製薬会社の引き合いが増加、バイオリジクス能力増強設備も10月に稼働し寄与。早期の次期能力増強を検討中。

④ Nutrition Solutions Unit

- Supplement：米国で免疫力アップ意識の高まりによりQH/Q10が販売好調。今秋から米国に続き日本でも腸内環境改善に効果がある乳酸菌を販売開始予定。
- Foods & Agris：中食増によりスパイス製品は堅調、製パン・製菓分野は需要回復基調もインバウンドの不振が響き回復の足取りは遅い。カネカグループ商品（サプリメント、乳製品、チョコレート、スパイス）のオンラインショップ開設、e-コマースでの販売拡大など事業の高付加価値化への取組みが進んでいる。

(2) 財政状態に関する説明

➤ 資産、負債及び純資産の状況

当年度上期末の総資産は、売掛金の減少等により前期末に比べて8,954百万円減の644,307百万円となりました。負債は、買掛金の減少等により12,052百万円減の287,114百万円となりました。また、純資産は、その他有価証券評価差額金の増加等により3,098百万円増の357,192百万円となりました。

➤ キャッシュ・フローの状況

当年度上期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により28,192百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により22,766百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により3,027百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当年度上期末残高は、39,931百万円となりました

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

➤ 1Qにコロナ禍の影響を大きく受けたコア事業群 (Vinyl、MOD、MS、Foam、Fiber、Foods)

は、2Qから月を追って需要回復のペースが上がっており、下期は本格的な収益拡大を見込んでいます。また先端事業群 (E&I、PV、Medical、Pharma、Supplement、農業生産支援) は下期も着実に事業拡大が進む見通しです。当社全体として、10月以降の業績は改善から再成長のステージへとモメンタムが強まると想定しています。

➤ 引き続きR&Bの「選択と集中」を進め、社会実装のスピード化、事業スケールアップに重点的に資源を投入してまいります。

➤ 10月5日に発表の新中期計画で強調しましたが、コロナ禍における未曾有のパラダイムチェンジのなかで健康、安全への価値観が高まっており、これまで重点的に資源を投入してきたヘルスケア、エレクトロニクスにかかわる事業を飛躍的に成長させてまいります。

➤ コロナ禍のもとでコスト合理化をはじめとする企業体質の強靱化を図るとともに、成長機会が一層拡大する先端事業群 (E&I、PV、Medical、Pharma、Supplement、農業生産支援)、新規事業群 (PHBH、OLED、再生細胞医療等) に経営資源を重点投入し、ポートフォリオの変革を加速してまいります。

2020年8月12日に発表した連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,748	41,044
受取手形及び売掛金	134,110	122,137
有価証券	190	191
商品及び製品	66,057	63,045
仕掛品	8,727	9,101
原材料及び貯蔵品	42,474	41,979
その他	17,852	15,892
貸倒引当金	△1,303	△1,391
流動資産合計	306,858	291,999
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	84,012	86,674
機械装置及び運搬具（純額）	110,073	108,734
その他（純額）	68,970	69,816
有形固定資産合計	263,056	265,225
無形固定資産		
のれん	3,306	3,094
その他	9,874	10,292
無形固定資産合計	13,180	13,387
投資その他の資産		
投資有価証券	48,548	52,304
その他	21,859	21,630
貸倒引当金	△241	△238
投資その他の資産合計	70,166	73,695
固定資産合計	346,403	352,307
資産合計	653,262	644,307

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	73,509	62,128
短期借入金	88,835	96,103
未払法人税等	2,408	2,336
引当金	107	4
その他	46,739	45,548
流動負債合計	211,599	206,122
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	33,293	27,258
引当金	317	304
退職給付に係る負債	38,308	38,177
その他	5,648	5,251
固定負債合計	87,568	80,992
負債合計	299,167	287,114
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	30,962	31,041
利益剰余金	280,265	279,498
自己株式	△11,583	△11,532
株主資本合計	332,691	332,053
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,246	16,766
繰延ヘッジ損益	△103	△81
為替換算調整勘定	△7,395	△7,176
退職給付に係る調整累計額	△7,956	△7,256
その他の包括利益累計額合計	△1,208	2,251
新株予約権	482	508
非支配株主持分	22,128	22,379
純資産合計	354,094	357,192
負債純資産合計	653,262	644,307

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	299,855	266,714
売上原価	216,103	192,748
売上総利益	83,752	73,965
販売費及び一般管理費	70,935	66,931
営業利益	12,817	7,034
営業外収益		
受取配当金	875	761
投資有価証券売却益	400	—
持分法による投資利益	74	46
その他	341	427
営業外収益合計	1,691	1,235
営業外費用		
支払利息	916	670
固定資産除却損	904	1,070
為替差損	697	310
その他	2,315	2,200
営業外費用合計	4,833	4,252
経常利益	9,675	4,017
特別損失		
訴訟関連費用	617	136
特別損失合計	617	136
税金等調整前四半期純利益	9,058	3,881
法人税、住民税及び事業税	2,638	1,781
法人税等調整額	△294	△821
法人税等合計	2,343	959
四半期純利益	6,714	2,921
非支配株主に帰属する四半期純利益	668	445
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,046	2,476

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	6,714	2,921
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,375	2,584
繰延ヘッジ損益	21	21
為替換算調整勘定	△3,683	341
退職給付に係る調整額	405	702
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	5
その他の包括利益合計	△4,634	3,656
四半期包括利益	2,079	6,577
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,687	5,936
非支配株主に係る四半期包括利益	392	641

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,058	3,881
減価償却費	16,787	17,787
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	447	927
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△19	63
受取利息及び受取配当金	△940	△803
支払利息	916	670
持分法による投資損益 (△は益)	△74	△46
固定資産処分損益 (△は益)	197	346
投資有価証券売却損益 (△は益)	△400	—
売上債権の増減額 (△は増加)	14,608	12,068
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,508	3,204
仕入債務の増減額 (△は減少)	△11,287	△11,453
その他	△4,400	2,815
小計	19,383	29,461
利息及び配当金の受取額	950	807
利息の支払額	△918	△682
法人税等の支払額	△3,254	△1,394
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,160	28,192
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△23,745	△20,778
有形固定資産の売却による収入	7	30
無形固定資産の取得による支出	△1,637	△1,606
投資有価証券の取得による支出	△38	△39
投資有価証券の売却による収入	425	16
投資有価証券の償還による収入	4,000	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	37	—
貸付けによる支出	△840	△775
貸付金の回収による収入	791	916
その他	79	△530
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,920	△22,766

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	3,519	5,772
長期借入れによる収入	595	645
長期借入金の返済による支出	△1,690	△5,620
社債の発行による収入	10,000	—
社債の償還による支出	△10,000	—
リース債務の返済による支出	△164	△251
自己株式の取得による支出	△2	△1
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△3,587	△3,261
非支配株主からの払込みによる収入	390	—
非支配株主への配当金の支払額	△188	△152
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△2,184	△158
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,312	△3,027
現金及び現金同等物に係る換算差額	△288	△118
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△8,360	2,280
現金及び現金同等物の期首残高	39,970	37,606
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	141	45
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,750	39,931

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	120,414	78,911	21,957	78,010	299,294	561	299,855	—	299,855
セグメント間の 内部売上高又は振替高	519	9	—	15	544	557	1,102	△1,102	—
計	120,934	78,920	21,957	78,025	299,839	1,119	300,958	△1,102	299,855
セグメント利益	10,202	7,583	4,049	2,360	24,196	286	24,483	△11,666	12,817

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	24,196
「その他」の区分の利益	286
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△11,673
その他の調整額	6
四半期連結損益計算書の営業利益	12,817

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	104,482	63,663	24,454	73,498	266,099	615	266,714	—	266,714
セグメント間の 内部売上高又は振替高	383	13	—	15	412	537	949	△949	—
計	104,865	63,677	24,454	73,514	266,511	1,153	267,664	△949	266,714
セグメント利益	7,374	3,929	4,970	1,432	17,706	341	18,047	△11,013	7,034

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	17,706
「その他」の区分の利益	341
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	△11,024
その他の調整額	8
四半期連結損益計算書の営業利益	7,034

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。